

縄文文化の 装身具②

—志美4遺跡から出土した縄文晩期の玉類—

石狩市新港東には、志美遺跡群という縄文時代晩期(約2500年前)の遺跡があります。この一帯は、花畔や花川から続く花畔砂堤列と呼ばれる波状の地形が低地部に広がり、そのうち尾根状に高まりのある部分から竪穴住居や墓の跡が見つかりました。1978年に発掘調査され、精巧な文様を施した土器や装身具などが数多く出土しました。今回はそれらの出土品の中から玉類の一部を紹介します。

写真1は勾玉まがたまです。C字状に湾曲した形で、一端には紐ひもを通す孔あなを開けています。この遺跡の勾玉を見ると大小さまざまで、形にはらつきはありますが、いずれも丁寧に表面を磨いて仕上げられています。また、勾玉に刻目きざみめを入れるなど、細かな部分を装飾的に仕上げたものがみられるのも特徴です。

写真2は楕円形だえんの玉です。長さ3.8cm・厚さ1.0cm・重さは14.1gほどの大きさで、中央部に直径0.7cmの孔を開けています。表面を丹念に磨き上げ、鮮やかな淡緑色がまだらに現れています。

写真3は石製の玉を連ねたネックレスです。玉の大きさは直径0.7〜1.2cmほどで、紐は残っていませんが、これら

の玉が連なった状態で土中から見つかったことから、紐状のものを通して使用していたとみられます。

写真1〜3の玉類の色相はいずれも緑色系ですが、石の種類にはばらつきがみられます。これらの石材は採取されないため、離れた場所にある産地から運ばれてきたことが分かります。中でも、写真2に用いられている楕円形の玉の石材はヒスイ製とみられ、道内では日高、道外では新潟県糸魚川市周辺といった限られた場所でのみ採取されません。これらの装身具は、2000

年以上前の石狩湾近郊で遠方の地域との物流・交流が行われていたことを示していると言えるでしょう。
(荒山千恵)



写真1 勾玉(志美4遺跡)
※左の勾玉で長さ3.5cm



写真2 楕円形の玉(志美4遺跡)



写真3 ネックレス(志美4遺跡)



石狩市学芸員
荒山千恵 Chie Arayama

専門分野は考古学。遺跡の発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。